

TRAUM CUP 2025 東日本 in Summer

- 主催団体： TRAUM CUP 実行委員会

- 大会スケジュール

2025 年 8 月 25 日～2025 年 8 月 28 日

※個人割り当ては 2025 年 8 月 28 日

- 会場

茨城県／鹿島ハイッスポーツプラザ

- 参加審判員

北海道 2 名 東北 2 名 北信越 2 名 関東 2 名

東海 2 名 関西 2 名 中国 2 名 四国 2 名 九州 2 名 計 18 名

- 参加インストラクター マネジャー 事務局

高橋 早織氏 阿久津 憲仁氏 角山 勝洋氏 佐古 善紀氏 田渕 量也氏

マネジャー高橋 武良氏 事務局村山 一平氏 計 7 名

高崎 航地氏 手代木 直美氏 大村 琴美氏
佐藤 隆治氏 西村 雄一氏 名木 利幸氏

- 大会割り当て

2025 年 8 月 5 日 @Zoom

事前研修会



2025 年 8 月 24 日 宿舎 @鹿島ハイッスポーツプラザ
事前研修会

2025 年 8 月 25 日 15:30K.O @鹿島ハイツスポーツプラザ第3グラウンド
順天堂大学 VS 関西学院大学 主審 INS: 角山 勝洋氏

2025 年 8 月 26 日 10:45K.O @鹿島ハイツスポーツプラザ第2グラウンド
流通経済大学 VS 拓殖大学 副審 INS: 佐古 善紀氏

2025 年 8 月 26 日 15:30K.O @鹿島ハイツスポーツプラザ第2グラウンド
流通経済大学 VS 中央学院大学 副審 INS: 佐古 善紀氏

2025 年 8 月 27 日 8:45K.O @鹿島ハイツスポーツプラザ第1グラウンド
関西学院大学 VS 順天堂大学 副審 INS: 角山 勝洋氏

2025 年 8 月 27 日 13:45K.O @鹿島ハイツスポーツプラザ第1グラウンド
関西学院大学 VS 同志社大学 副審 INS: 角山 勝洋氏

2025 年 8 月 28 日 8:45K.O @鹿島ハイツスポーツプラザ第2グラウンド
順天堂大学 VS 流通経済大学 主審 INS: 高橋 早織氏



- 大会振り返り（○=できた、△=アドバイス、●=改善点）

✓ 2025年8月5日 事前研修会振り返り

- 審判委員会のビジョン 2030 について（今回に限らず、次へのステップアップ）
- 大会スケジュール等確認
- 目的 On the pitch「Refereeing」 Off the pitch「生活の基本」

テーマ 新たな**気づき**→や**学び**→を得たことを

次の試合に**チャレンジ**→しようと思うことを整え、行動に移す。

- 自己紹介
- 「サッカーの「4局面」と「球際」を理解したレフェリング」

レフェリングへのメリット

局面ごとに起こりやすい反則や選手の心理変化を予測できる。

攻撃 攻撃から守備（球際） 守備 守備から攻撃（球際）

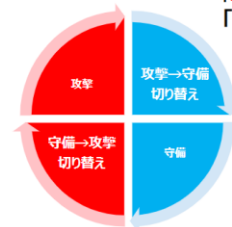
球際とは？ 選手同士がボールを奪い合う際に起こる接触・攻防の場面

- 身体作りとは？ 「動く→食べる→休む」を正しく行う。
- STAFF 活動について

ON において OFF においても

自ら課題を発見し、課題解決への方策を探る姿勢

サッカーの4局面



「攻撃」「守備」だけでなく、
「**攻守の切り替え**」に注目した戦術の基本概念

レフェリングへのメリット

局面ごとに起こりやすい反則や
選手の心理変化を予測できる

✓ 2025年8月24日 事前研修会振り返り

- 大会概要の確認
- アイスブレイク（他己紹介）
- 大会のターゲット

審判員、大会スタッフの役割を認識し大会を成功させる。

能動的に行動し自ら解決に取り組む。

- 高崎 航也氏講演
好きなことで世界を広げる。

目的

ON the pitch

- ・ 試合実践とフィードバックを通し、**サッカー理解**を深め、**レフェリング技術**を磨く。

OFF the pitch

- ・ 選手、チーム、指導者、事業関係者等との**交流**により、**新たな視点**や幅広い**知識**を獲得する。
- ・ 宿泊研修を通じた**集団行動**の中で、**リーダーシップ**、**協調性**、**信頼関係**の構築など、審判員として必要とされるスキルを向上させる。

研修会テーマ

新たな**気づき**や**学び**を得たこと
次の試合に**チャレンジ**しようと思うこと
を整え、行動に移す



✓ 2025 年 8 月 25 日 プラクティカル、大会、研修会振り返り

<プラクティカル>

■ FK マネジメント

笛（強弱）→ポイント→距離測定→コミュニケーション→笛

強い笛とスムーズな流れかつ短く強い言葉でリーダーシップを取ることが大切

<大会>主審

➤ 主審として

○動きがダイナミックであるためスピード感があってゲームにマッチしている。

○PA 付近での細かいポジション修正が出来ている。

○コート全体を大きく使ったレフェリングが出来ている。

○ファウルの判定をいい距離、角度で出来ている。

△AR サイドにチャレンジすることは悪いことではないがそれを行ったときのリスクに何があるのかを理解し考えるべき。（普段取らないポジションだからこそ）

●GK へのバックパスと FW のプレスが重なったときの自身のポジショニングの修正力

●ADV をかけるタイミング。ウェイトしてもいい。

<研修会>

■ 映像クリップ発表

➤ DOGSO なのか SPA なのかの状況判断

➤ マネジメントについて

➤ 攻撃側の向かっているベクトルと守備の向かっている方向を理解した中での判定力

■ アイスブレイク（能動的に自分が行ったこと）

■ ワークショップ（審判員が求められること、求められるポジショニング）

✓ 2025 年 8 月 26 日 大会、研修会振り返り

<大会>副審

➤ 副審として

○ライン際の攻撃側の競技者が受ける意思があるときとないときに合わせてラインを見ることが出来ている。

○主審とのアイコンタクトを継続的に出来ている。

○ゲームの流れを考えた中でのサポートが出来ている。

△走りながら「DOGSO」などと声を出すことは必要なことなのか

主審が判定するうえでその声は本当に必要なものなのか考えるべき。

<研修会>

- 映像クリップ発表
 - FW が GK に対してプレスをかけたときの R としてのポジショニング
 - カードの提示の仕方と情報共有
 - 攻撃、攻撃→守備、守備→攻撃、守備の 4 局面に関する動き出し
- ワークショップ（映像クリップにより接触箇所と懲戒処置について）



✓ 2025 年 8 月 27 日 大会、研修会振り返り

<大会>副審

- 副審として
 - 積極的に裏を狙い続けるチームに対して正しい判定を継続することが出来ていた。
 - 正しいスローインの位置を主審に対して助言することが出来ていた。
 - 2 枚目 Y カードの選手のサポートを主審に対して行うことが出来ていた。
 - △バックステップ→サイドステップ→ランを使う幅を大きくするためのプレーの予測スピードを上げるためにどのような試合の見方があるか考えるべき。
 - サイドステップの量をまだ増加することが出来る。

<研修会>

- 映像クリップ発表
 - ADV について
 - 5 分間で 3 枚の Y カードを提示したときのゲームの間の取り方
 - DOGSO の状況確認
- アイスブレイク（大会であった誰かのちょっといい話）
- ワークショップ（美しい試合をするために大切なこと、審判員に必要なこと）

✓ 2025 年 8 月 28 日 大会

<大会>主審

- 主審として
 - PK の判定に対していい距離と角度で見ることが出来ていた。
 - ピッチ内で 1 枚 Y カードを提示後にベンチでの異議での 2 枚目の Y カードの提示をスムーズにすることが出来ていた。

○ファウル→ADV (Yカードロールバック) →オフサイド→ロールバック Yカード提示
→FK再開の声のタイミング、笛のタイミング再開までの流れがスムーズだった。

○足のリーチを生かしたスプリントがあることでPA付近に対して勢いを持ってチャレンジすることが出来ている。

●異議を示している選手に対してアプローチをかけることは勇気のいることではあるがチャレンジするべきである。

●判定に対する異議の対応の仕方

△ファウルをしているチームの異議に対してファウルをされているチームがどのような気持ちになっているのかを考えるべき

● 最後に

この度は TRAUM CUP 2025 東日本 in Summer 全国大会に推薦していただいた中国サッカー協会、広島県サッカー協会の皆様に感謝申し上げます。

今大会では試合で審判員として活動することだけではなく、大会の運営スタッフとしても活動をさせていただくこととなりました。大会を成功させるために審判員として何が必要なのか大会スタッフとして何が必要なのか様々な角度から多くの学びを得ることとなった大会でした。

クラブユース U-15 全国大会を含めた今大会も自身の強みを活かすことが出来た大会であり学んできたことを全面に活用することが出来ました。

しかし大会期間中に新しくチャレンジできなかったことも多くあり、今大会の目標として挙げられたチャレンジすることが出来なかったことは今後の活動の反省材料として活かしていきます。

走りの部分に関しては全国のチームでも対応することが出来ること角度の取り方と球際が起こる際のポジションを縮めることが出来ていることも自身の強みとして今後も取り組んでいくだけでなく、自身の課題としてそのポジションを取ることに伴うメリット、デメリットを考えること、判定に対する異議への対応の仕方や笛や表情も意識しながら取り組んでいけるようにしていき、様々なことにチャレンジしていけるように目の前の1試合を大切にに取り組んでいきます。

今後ともよろしくお願いいたします。

